

メッセージアウトライン

ルカの福音書1:26～45 「信じる者の幸い」

[26-27]「さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなづけで、名をマリアといった」

1:5～25で御使いガブリエルが祭司ザカリヤに、救い主のための道ぞなえをするヨハネの誕生を告げたそのことばのとおりに彼の妻エリサベツは妊娠し、六か月目になった。ユダヤの祭司ザカリヤに現れた御使いガブリエルは、今度はガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。

「ナザレ」…イスラエルの北部のガリラヤ湖の西約20kmのところにあった小さな田舎町。「マリア」…ダビデの家系のヨセフという人のいいなづけであった。彼女はイスラエルの眞の神を信じる信仰を持っていた若い女性であったと思われる。

[28-29]「御使いは入って来ると、マリアに言った。『おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。』しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいきつかと考え込んだ」

突然の御使いの現われとそのことばを聞いたマリアはひどく戸惑い恐れた。しかし、御使いはいつまでも彼女を当惑させずに、具体的な内容を彼女に教える。

[30-33]「すると、御使いは彼女に言った。『恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。』」

御使いはマリアが神から恵みを受けたこと、身ごもって、男の子を産むこと、その名をイエスと名づけること、その子は大いなる者となり、いと高き方の子(神の子)と呼ばれ、神は彼にその父ダビデの王位を与え、とこしえにヤコブの家(イスラエル)を治め、その国は終わることがないと伝えた。

これは具体的には、彼女によって生まれるイエスという男の子こそ神の子であり、人々が長い間待ち望んでいたイスラエルの救い主、永遠に続く国の王であるということである。

「イエス」とはイスラエル人のことばであるヘブル語のヨシュアという名を当時一般的に使われていたギリシャ語に訳したことばで「主は救い」という意味。

[34-37]「マリアは御使いに言った。『どうしてそのようなことが起こるのでしよう。私は男の人を知りませんのに。』御使いは彼女に答えた。『聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は、聖なる者、神の子と呼ばれます。見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。神にとって不可能なことは何もありません。』」

マリアは正直に、自分はまだ男の人を知らない。すなわちまだ男性との性の関係を持っていないのにどうしてそのようなことが起こるのかと御使いにたずねた。すると御使いは、それは聖霊によるのであり、いと高き方、すなわち神の力があなたをおおうからですと答えた。すなわちマリアは普通の男女の性関係によって子を宿すのではなく、処女であるのに、聖霊なる神の超自然的な力によって妊娠し、男の子を産む。

それで、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれるようになるというのである。

普通の男女の性関係によって生まれるならば、神がこの世界の万物を創造された時の最初の人間アダムとエバが神との契約を破って罪を犯して以来、人間は聖なる神の前に罪ある存在となってしまっているので、やがて神のさばきを受けて滅びに行かなければならず、永遠の神の国、天国に入ることはできない。

神はこのように罪を必ず裁かれる義なるお方であるが、また愛なるお方でもある。それゆえ、神は人間を救うために罪のないお方、ご自分のひとり子イエス・キリストを聖霊なる神の超自然的な力によって、マリアから人として生まれるようにしてくださったのである。→ヨハネ 3:16 人間の罪を身代わりとなって負い、罪を贖うための救い主は罪を持たないお方が必要であった。

御使いはさらに、彼女の親類のエリサベツの例をあげる。彼女は祭司ザカリヤの妻で不妊の女性であったが、今はもう妊娠六か月であることを告げた。御使いがザカリヤに告げた神のみことばが確かにエリサベツにおいて実現しているのである。→ルカ 1:5~26

「神にとって不可能なことは何もありません」…人間にとっては不可能に思われることであつても、神にとって不可能なことは何もない。神々と呼ばれるものならば世界中にあるが、そ

かれは人間の想像力で考え出したもので何の力も実体もない。真の神はこの世界、この宇宙、天地万物、そして人間を造られた全知全能の唯一のお方であり、この神にとって不可能はない。聖書の神はこのようなお方である。

[38]「マリアは言った。『ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。』すると御使いは彼女から去って行った」

マリアの「どうして…」との問い合わせに、御使いは親類の高齢のエリサベツの妊娠のことを教え、人間にとって不可能と思われるようなことでも、神にとって不可能なことは一つもないことを告げた。それでマリアは御使いのことばをすなおに受け入れ、「…どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように」と答えた。マリアは信仰をもって決断をした。ルカ1:5～25の祭司ザカリヤの場合と比べるとその違いがよくわかる。

ザカリヤは同じ御使いガブリエルのことばを聞いた時、それを素直に信じられず、しるしを求めた。その結果。彼は御使いのことばが実現するまで口がきけなくなってしまった。(1:18～20) 彼は長年、神に仕える祭司でありながら、いざ御使いが現れた時、常識で判断し、疑った。

たしかにマリアも「どうしてそのようなことが起こるのでしょうか。…」と御使いに問い合わせ、御使いもその説明をしたが、ザカリヤの場合は説明せず、ただ伝えられたことばだけを信じることを求められた。

この違いは、ザカリヤは神に仕える祭司であり、長年神を礼拝し、神のために奉仕し、神に近く歩んできたからではないか。そのように神に近く歩めば歩むほど、ただ神のみことばを信じることだけが求められるのである。

もしマリアがこの御使いのことばを拒否したならばどうなっていたらう。彼女はこの世に救い主を産むという神の恵みを受け損ない、世界の歴史も変わっていたであろう。ではなぜ、彼女はすなおに信じられたのであろうか。

①御使いガブリエルの現われを見た。

②親類のエリサベツのことを聞いた。(不妊であったが、今はもう六ヶ月)

エリサベツのことを知っているとは、これはもう本当だと思ったのだろう。

全能の神に不可能はない。聖書の教える全知全能の神を信じる信仰者は、このマリアのように、神のみことばを心から信じ、受け入れることが大切である。これを私たちが心から信じるならば、世界は変わり、私たち自身も変えられるであろう。

[39-45]「それから、マリアは立って、山地にあるユダの町に急いで行った。そしてザカリヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。エリサベツがマリアのあいさつを聞いたとき、子が体内で踊り、エリサベツは聖靈に満たされた。そして大声で叫んだ。『あなたは女の中で最も祝福された方。あなたの胎の実も祝福されています。私の主の母が私のところに来られるとは、どうしたことでしょう。あなたのあいさつの声が私の耳に入ったちょうどそのとき、私の胎内で子どもが喜んで踊りました。主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。』」

マリアは御使いのことばを信じて、親類のエリサベツを訪問した。「山地にあるユダの町」…エルサレムの近く。ナザレからは山道を南に向かって歩いて約 100 km の距離。マリアはエリサベツのところへ行くことによって、実際に彼女の様子を見ることができる。しかし、これはマリアが不信仰な思いで確かめに行くというのではなく、御使いのことばを信じて、身重のエリサベツをお見舞いに行ったのである。

そしてマリアがエリサベツにあいさつをしたとき、エリサベツの胎内で子が喜び踊り、彼女は聖靈に満たされた。この子は御使いがザカリヤに告げたヨハネのことである。エリサベツはマリアが聖靈によって身ごもったということは何も知らないのに、「…私の主の母が私のところに来られるとは、どうしたことでしょう」とマリアを大声で祝福した。エリサベツはおおらかで明るい性格であったようである。

ここで彼女はマリアの胎の子を「私の主」と呼んでいる。これは彼女が聖靈に満たされたがゆえに普通の理解を超えた超自然的な告白である。それに続けて彼女は、「主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです」と言った。

お金持ちが幸いだとか、家柄の良い人や、学歴のある人が幸いだとか言うのではなく、主によって語られたことは必ず実現すると信じた人が幸いなのである。

人間の約束はしばしば當てにならず、裏切られたり、だまされたり、當てが外れたりすることがあるが、神のことば、神の約束はそうではない。必ず実現する。このことを信じ切った人が幸いなのである。

「いつか信じる」とか「半分だけ信じる」ではなく信じ切ることが大切。

神はガリラヤのナザレという田舎町の一女性マリアを恵みによって選ばれた。そして、彼女はこの神の選びに信仰をもって従う姿勢を持っていた。それゆえにこのことを通して創

世記 3:15 の神の救いの計画が実現することとなった。主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は幸いなのである。

神にとって不可能なことは何もない。私たちもマリアのように「あなたのおことばどおり、この身になりますように」と信仰を告白しつつ、この愛に満ちた全能の真の神に従って生き、そのようにして私たちを通して神のみわざがこの世に現わされていくことを願う。